

【令和５年度】公立大学法人秋田県立大学 職業実践力育成プログラムに係る自己点検・評価

<概要>

課程名：スマート農業指導士育成プログラム

実施期間：令和５年５月２３日(火)～令和６年３月２６日(火)

受講者数：２７名

修了者数：２７名

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	プログラム評価委員会の評価
１．教育課程(プログラム実施状況、カリキュラムの妥当性)	当プログラムは学校教育法第 105 条に規定する特別の課程に対応し、スマート農業において必要とされる新たな知識・技術・技能を修得した支援・指導人材である「スマート農業指導士」を養成するために必要な学修領域・カリキュラムが配置されており、体系的に知識を修得することができる。	- 知識、技術、技能の連関を強く意識したカリキュラムは、特に評価できる。 - スマート農業技術の進歩の速さに対し、生成 AI の活用を含め、新しい技術をどう取り入れるかが課題である。 - 普及が進む新しい技術の評価を受講生に伝えることの検討も必要
２．企業、実務家等と連携して行う双方向の授業等、実践性の高い授業の実施状況	当プログラムは企業、団体等と連携して実践性の高い授業を実施している。履修 67 時間のうち 59.5 時間(約 90%)は、文科省が定める実践性の高い授業に該当している。	- 実務家、企業等の講義や実技も多く、実践性は高い。 - スマート農業に関する幅広い情報が含まれており充実している。講師陣も充実しており実践性の高い授業が展開されている。
３．教育成果(身に付ける能力を修得したか)	- 受講生は、全ての講義・演習を履修し、最終課題(スマート農業普及活動計画)の作成・提出、プレゼンを行った。生物資源科学部・AIC 教員 6 名、システム科学技術学部教員 3 名、プログラム外部評価委員 3 名が審査を行い、身に付ける能力の修得度合いを評価した。 - 講義・演習の履修状況、最終課題の評価結果をもとに、AIC 教育プログラム委員会において 27 名の修了を認定した。	- スマート農業普及活動計画作成とプレゼンを課していることなどから、評価・修了認定は適切と考えられる。 - スマート農業の普及という視点を持って課題を把握していく機会が得られる点も評価できる
４．受講者支援(学修支援体制、学修支援状況)	- 担当教員は、オンデマンド講義の視聴状況を確認し、個別に受講生に対して視聴を促す連絡を行い、最終課題の作成の際には受講者への個別対応も行うなど、きめ細やかな学修支援を行った。 - 外部講師による AIC 圃場等での演習の際には、担当教員が外部講師の講義補助を行い、効果的な学習環境づくりに努めた。 - 受講後アンケートで出された質問に対して、後日、外部講師または担当教員より回答し、受講生全員で回答内容を共有している。	- 受講者の学習進捗状況がチェックされ視聴を促すなど、支援体制は妥当。外部講師の支援も適切に行われている。 - 担当教員の業務が過度とならないような工夫が必要。
５．組織運営(教育組織の適切性・妥当性等)	- 運営組織は、外部講師対応や受講生対応などの各種の事務処理などを担当する専属職員を配置し、教育組織への負担を軽減させている。 - 教育組織は、実務経験の豊富な教員を配置し、カリキュラム開発、プログラムの実施、学習の進捗管理が適正に行われた。	組織運営は適切。
６．施設設備(施設及び設備の整備状況)	- R5 年度は、Wi-Fi 環境、冷暖房環境、スクリーン映写や音響環境が整った新研究・管理棟において、講義や演習を行った。 - 必要に応じて演習用ノート PC を受講生全員に貸出し、受講生の利便性の向上を図った。また、AIC 圃場での演習の際は、熱中症対策としてテント設営を適宜実施した。	施設設備は整っていると考えられる。屋外演習における熱中症対策の整備も行われ適切である。
７．広報活動(受講生の募集・広報活動)	- 受講生募集の際には、大学 HP への情報掲載、秋田県庁および県内市町村や JA など、関係機関・団体に対する募集要項の郵送等、幅広い周知を行った。 - 地域の農業者や農業団体などによる AIC 見学会、プログラム担当教員による講演や学会報告・論文投稿、本学 SNS での演習動画の公開、新聞・テレビなどメディアによる情報公開を通じ、本プログラムの周知に努めた。 - 以上により、受講定員 20 名を大きく超えた 37 名からの応募があり、適切に広報活動が行われていると評価できる。	広報活動は行われているが、他県での認知度には濃淡があるのが現状。WEB マガジンを含めた全国メディアでも取り上げてもらえるような働きかけの検討も必要。

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	プログラム評価委員会の評価
8. 企業等の意見を聴くための仕組みの整備	・スマート農業指導士育成プログラム評価委員会に、企業や県庁、JA などから外部委員を配置した。 ・本事業は単なるスマート農業機器のユーザ教育ではなく、スマート農業支援人材を育成し、スマート農業技術のフル活用による我が国農業の維持発展を目指すものである。このようなプログラムは全国的にも初めての取組であり、積極的に企業のアイデアを聞き、継続的にプログラムの改善に活かしていくことが今後の課題である。	・外部評価委員会など、外部から意見を聞く体制が整備されており、その意見をプログラム改善に生かしている。今後、企業だけでなく、県内の先進的な生産者など現場側からの意見を聞く機会を検討しても良いのではないかな。 ・過去の状況を見ても課題の共有、改善に向けた検討が十分に行われており、今後も継続が望まれる。 ・成立したスマート農業技術活用促進法への対応も望まれる。
9. 社会人が受講しやすい工夫	・当プログラムの総時間の約 60%をオンライン（オンデマンド、一部ライブ配信）で実施し、社会人の受講に配慮した。	・オンラインを多用し、社会人が受講しやすい工夫がなされている。
10. 受講生の状況に係る効果検証	・すべての講義・演習において受講後アンケートを実施し、受講者の興味関心や理解度の把握することで、プログラムの改善に活用している。 ・第 1 期（R4 年度）修了生 22 名の追跡調査を行い、本プログラムの効果を検証した。 1) スマート農業研修会・体験会 開催回数 41 回 参加者数 555 名 2) スマート農業技術・サービスに関わる現地実証 実証農家数 139 件 3) スマート農業に関する農業者への相談対応 相談件数 120 件 4) スマート農業導入支援実績 導入農業者数 33 名 ・第 1 期（R4 年度）修了生に対するフォローアップとして、特に成績優秀であった 3 名を同行したスマート農業先進地調査（高知県）を行った。	・効果検証はできている。先進地視察は受講生の励みになり、非常に良い取り組み。 ・本プログラム修了生のネットワーク構築とその維持ができれば、「スマート農業技術のフル活用による我が国農業の維持発展」に大いに貢献するのではないかな。